



じょうの 城野遺跡公園を実現する会

会報 第3号

北九州市小倉南区域城野/JR日豊本線・JR日田彦山線「城野駅」南口から徒歩3分

今年も残すところわずかになりました。会員の皆様いかがお過ごしですか。「城野遺跡公園を実現する会」会報第3号をお届けします。

城野遺跡の東エリアでは、この秋9月20日に「ゆめマート城野店」がオープンし、城野駅南口の人の流れも変わりつつあります。

この会の当初の活動では、城野遺跡全域を保存・整備し、北九州市で初めての本格的遺跡公園の設立をめざしていましたが、しかし、西エリアに存在する方形周溝墓部分を大和ハウスが市に無償譲渡することを表明したことを皮切りに、東エリアの開発が急ピッチで進み、そこにあった玉作り工房を含む竪穴住居跡群はすべて破壊されました。

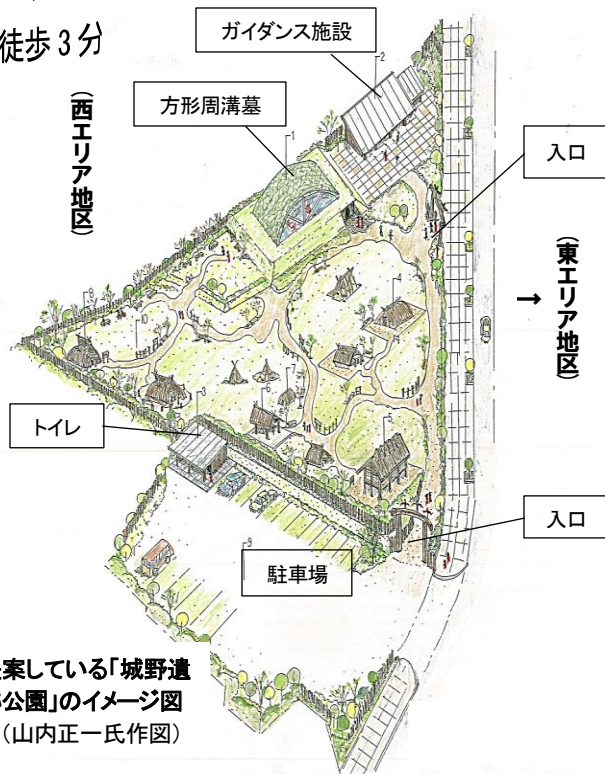
せめて西エリアだけでも北九州市が土地を買い戻して、遺跡公園として保存・整備してほしい、との願いも届かず、市は周溝墓へのアクセス道路を含むほんのわずかな面積を取得して「遺跡広場」的なものを作ろうとしています。

そのような狭い遺跡保存では、城野遺跡の本当の歴史的価値を市民が実感できないばかりか、荒れ放題の「重留遺跡公園」(城野保育園の南隣)の二の舞になってしまいます。

私たちは、まだあきらめるわけにはいきません。

この状況をなんとかして打開するカンフル剤として、来る**12月2日(日)**に9回目の講演会を開催することになりました。詳しくは別紙(案内チラシ)をご覧ください、是非ともご参加いただきますよう、会員の皆様にお願ひ申し上げます。

引き続き、右図面のような西エリア全域の遺跡公園の実現をめざして頑張っていきましょう！(会長 万田 守)



提案している「城野遺跡公園」のイメージ図
(山内正一氏作図)

●ふるさとの古代人に出会うプチツアー第2弾「城野遺跡の『朱塗り石棺』を見に行こう」に参加しました！

幼児の朱塗り石棺をみながら、熱心に説明を聞く参加者



8月26日(日)、今回のプチツアーに参加し、以前から見たいと想い続けていた九州最大級の方形周溝墓で発見された1800年前の幼児の朱塗り石棺を鑑賞することが出来ました。当日は、埋蔵文化財センター調査室の佐藤氏のガイド付きということもあり、参加者(会員)20名(役員5名、役員外15名)は、熱心に説明を聞き入り弥生時代を想像し、古代人に想いを廻らせ、質疑応答が飛び交いました。

私が感心したのは南棺から出土した碧玉製管玉6個とメノウ製棗玉1個をつなげた首飾りです。管玉は島根県花仙山産を使用し、山陰とこの地域との海上貿易が行われていた事も判明しています。また、首飾りの玉をつなぐ孔の細さです。鉄錐や鉄針などの穿孔具で開けられたことの技術に驚かされました。はじけて割れるのを何度も繰り返したのではないかと想像します。首飾りをかけられた方の幼児は女の子だったのでしょうか？

次代の王子2人を失ったクニはどのようにして再建していったのでしょうか？

このように城野遺跡は「弥生社会」を理解するための貴重な遺跡です。現在、東エリア(玉作り工房のあった集落)にはスーパーマーケットが開店して地域住民の便利な場所になっています。周辺の景観は思っていたほど損なわれず、西エリア全域からは城野の弥生人も眺めたであろう足立山の全貌をのぞむことができます。市計画の方形周溝墓付近だけではなく、西エリア全域を残すことがどれだけ豊かな存在になるか計り知れません。歴史的な文化遺産である城野遺跡を「城野遺跡公園」として残したい気持ちが強くなった「ふるさとの古代人に出会うプチツアー」でした。

●(株)サンレー様が団体会員に！

—城野遺跡は古代日本の葬送儀礼の手がかり—

株式会社サンレー様は1966年創業の冠婚葬祭関連事業を九州(福岡・大分・宮崎・沖縄)、北陸(石川)で展開する、北九州市に本社がある大手企業です。

2010年の発掘調査直後から城野遺跡に注目されていましたが、その後情報がなく、私たちの活動をインターネットで知り入会のお申込みをいただきました。

城野遺跡の東エリアが全滅し、西エリア全域の遺跡公園化も危ぶまれる中、「古来より続く日本の儀礼文化を守り、そして後世に伝えていくことは現代に生きる者の使命であり、そのために『城野遺跡』のような貴重な文化遺産をきちんと保存することは必要」と地元の手企業からの思わぬエールにとっても励まされています。※入会のご挨拶もいただき、全文を当会のホームページの10/4付記事に載せています。ぜひご覧ください。

◆お詫び◆

当会顧問 近藤英夫 先生(日考古学協会副会長)『面談記(続編)』は紙面の都合で次号に掲載いたします。

～講演会&現地見学会 開催のお知らせとお願ひ～

「城野遺跡群重留遺跡の銅矛祭祀とその意義」

日時 12月2日(日) 13時30分～16時00分(13時受付開始)

場所 小倉南生涯学習センター 大ホール(4階)

講師 吉田 広 先生(愛媛大学准教授) **終了後、現地見学会もします！**

参加費 500円(資料代、会場費等)

講師の吉田広先生は、重留遺跡で出土した祭祀用の広形銅矛が2016年8月に国重要文化財に指定された記念に、北九州市が主催したシンポジウムのパネリストを務めるなど弥生時代青銅器研究の第一人者です。弥生時代に花開いた北九州独自の青銅器文化の紐解きとともに重留ムラの銅矛にまつわる祭祀と城野ムラの権力者に関わる話にも期待です。城野遺跡、重留遺跡、重住遺跡は、邪馬台国時代のクニの中心集落(首都)とも言われており、日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会全国委員でもある吉田先生の城野遺跡の保存、活用の魅力や重要性のお話は活動の確信と励みにもなると思います。終了後、重留遺跡、城野遺跡の現地見学会も開催。市の文化財行政の実態も確認します。

お知らせが遅くなり申し訳ありませんが、ぜひご参加いただきますとともに、ご家族やお知り合いにも案内を広めていただきますようお願いいたします。

ご協力のお願ひ ※ご協力いただける方は裏面右下の永田あて電話・SMSかFAXをお願いします。氏名、住所、電話番号をお忘れなく。

①城野遺跡周辺への案内チラシの配布にご協力ください。

11月10日(土) 10時30分「JR城野駅」南口に集合

②講演会当日の資料セットや会場準備等にご協力ください。

当日11時に会場に集合



国重要文化財に指定された重留遺跡の広形銅矛

●陳情書「邪馬台国時代の東アジアと北部九州の歴史が刻まれた城野遺跡を日本屈指の弥生遺跡にふさわしい遺跡公園へ」を市議会へ提出！さらに署名を積み上げます！

9月25日、9回目となる陳情署名を9月議会に提出しました。12月議会までの閉会中の教育文化常任委員会での審査となり、それまで追加します。前回の会報にも同封しましたが、引き続きご協力下さい。

今回の陳情内容は以下の3項目です。

- ①市計画の「遺跡広場」にガイダンス施設、学習室、トイレ、駐車場、木陰、ベンチなどの設置
- ②「遺跡広場」計画案を公表し、地元住民の意見を聞くこと
- ③2013年10月の国への「土地取得等要望の回答」で取得要望しなかった理由を明らかにすること

6月12日の教育文化常任委員会で、「西エリアを遺跡公園に」と求めた会の陳情4本が、一括不採択になったことは既にお知らせしました。不採択となった陳情と同じ内容では受け付けられません。市が計画している部分的な「遺跡広場」では、せっかく保存される方形周溝墓も台無しです。市計画の「遺跡広場」に配置されるべき諸施設の設置を求めることで、暗に西エリア全体をイメージさせる内容にと考えました。

また、「地元住民の意見を聞く」とした本会議の市民文化スポーツ局の局長答弁も早急に実行すべきです。会の意見も聞くべきでしょう。そしていつも行きつく疑問があります。なぜ市は医療刑務所跡地の取得要望をしなかったのかということ、その理由が知りたいものです。

緊急署名にご協力を！

署名用紙を同封いたしますので、ご家族やお知り合いに一人でも多く集めていただき、同封の返信用封筒(切手を貼って下さい)でお送りいただくか、お近くの役員にお渡しください。

2次締切り 11/19(月)必着

●城野遺跡に関する「学校(小倉南区)アンケート調査」の報告

遺跡公園を実現する運動を進めるにあたって、学校の先生方の意見を聞く必要を感じ、本年6月に、城野遺跡の所在地である小倉南区内の小中高校及び特殊学校の計47校にアンケート調査用紙を郵送しました。1/3強の18校より貴重なご意見をいただきました。質問事項及び回答の集計(抜粋)は別表の通りです。

遺跡の認知度及び学校の総合学習等での活用が可能かどうかの回答内容を分析すると、質問1で「全く知らない」は1校、質問2で「授業で取り上げない」は1校、質問3で「活用しない」は3校です。質問1～3の回答内訳を学校数合算ポイントにして計算してみると「全否定的な」回答は5ポイント、「肯定また否定的ではない」回答の合計ポイントは49ポイントになり、遺跡の活用にも否定的な意見は少数です。質問2、3の圧倒的多数の「どちらともいえない」の回答者も、質問4の「トイレ」「駐車場」「説明できる人」「資料館」「説明版」があれば、郷土の歴史を学ぶ場として遺跡公園を活用できると考えていることもわかりました。

市計画の方形周溝墓付近だけの「遺跡広場」では上記設備はほとんどできません。城野遺跡の教育的価値を活かすためにも、西エリア全域の遺跡公園化へ運動をさらに大きく前進させて行きましょう。

項番	質問内容	全回答の合計数(回答 18校)		
		よく知っている	聞いたことはある	全く知らない
1	城野遺跡をご存知ですか	1	16	1
2	郷土で見つかった貴重な城野遺跡について、授業で取り上げたいと思われますか	5	1	12
3	「城野遺跡公園」が実現したら、遠足や社会見学等で活用したいと思われますか	4	3	11
4	遠足や社会見学等で子供たちを連れて行く場合、必要な設備等はどんなものでしょうか	資料館	9	11
		研修室	3	11
		休憩所	2	15
		ベンチ	3	15
	説明できる人	11	6	
	看板などによる説明	8	6	
	食事のできる場所			
5	その他、ご自由にお書きください			

●「埋蔵文化財センター」の「八幡市民会館」移転に関して

[当会会員 山内正一さんからの寄稿です。北九州市の文化財行政全般を皆で考えよう!]

皆さんはこの案についてどのようにお考えでしょうか、私は建築士の立場から見て不向きだと思えます。八幡市民会館は本来、音楽や演劇、美術館などのために設計された文化的価値のある建物であり、根本的に建てられた目的が異なります。今回の北九州市の計画案では、舞台を含めたホール内部空間の大部分を収蔵庫とするため、建築家 村野藤吾氏が精魂こめて設計した歴史的建造物を壊すこととなります。また、多額の費用をかけて改修しても、今の案では魅力ある埋蔵文化財センターになるとは思えません。本来は市民会館の活用と、埋蔵文化財センターのあり方を別々に考えるべきだと思います。

どうしても、北九州の貴重な文化や歴史を学ぶ埋蔵文化財センターの移転を考えるのであれば、長期的観点に立って計画されるべきだと思います。今回の件をチャンスにとらえ市民の多くが望む城野遺跡現地保存の為の遺跡公園実現に向けて、粘り強く、あきらめることなく、市に要望していくことが重要だと思います。今回提案された市の計画をより良いものにする為にも、北九州市民の意見、要望を訴え、又多角的な角度から専門家の知恵や判断を仰ぎながら、着実に前進していくことを願います。

「八幡市民会館の活用を求める連絡会」山内正一 (山内正一建築研究所 主宰)

※ 山内さんは裏面右上の「城野遺跡公園」イメージ図の作図者です。

健和会・友の会通信『ぱーとなー』に4頁特集で載りました！表紙に



●●● 会員募集中 ●●●

会の目的にご賛同いただける個人や団体の入会を広めてください。入会申込書と年会費(個人1,000円 団体2,000円)が必要です。入会希望がありましたら、下記連絡先(永田)までご連絡ください。

発行日 2018年11月4日
 発行者 城野遺跡公園を実現する会
 編集担当 高橋徹雄
 連絡先 永田由起(事務局長)
 TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524
 振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174
 「城野遺跡公園を実現する会」

<それなんのこと？ 考古学用語解説コーナー>

水銀朱とは(すいぎんしゆ)

弥生時代から古墳時代の墳墓の中に塗られた赤色顔料のひとつ。酸化第二鉄(Fe₂O₃)を主成分とする「ベンガラ」とは違い、硫化水銀=辰砂(HgS)からなる鉱物で、限られた地域でしか産出しない。城野遺跡の2つの石棺に撒かれた水銀朱は分析の結果中国産と判明。それも大量に使われていることから、この地域の権力者が中国との交易で手に入れた可能性もある。中国では本来仙薬(不老長寿の薬)として使われていたようで、この鉱物の赤色には防腐作用や魔除け、鎮魂・呪術的な意味合いがあるとして、日本ではおまつりの道具などにも塗られることが多い。『魏志倭人伝』に記載の「丹」はこの水銀朱のことと考えられている。



ホームページ「城野遺跡公園を実現する会」で情報発信しています。ぜひご覧ください。